

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

サロマ湖を考える

11月25日、佐呂間町富武漁民センターにおいてサロマ湖養殖漁業協同組合の主催で“サロマ湖の漁業の継続的安定と漁場環境の保全を図るための提案”と題して、サロマ湖環境保全シンポジウムが開催されました。パネラーには、サロマ湖環境保全対策管理委員会：林委員長外委員7名を迎え、高桑代表理事組合長がコーディネーターを務めました。このシンポジウムには、常呂・佐呂間・湧別の各漁業協同組合の組合員、役・職員のほか、関係行政職員など合わせて82名が参加し、「冬季に結氷しないサロマ湖では、何が起るのか」などの話題に興味深く耳を傾けていました。



豊漁の秋

湧別・佐呂間・常呂の3漁業協同組合を合せた今年のサケ漁獲量は13,207トンで、漁獲高は42億7百万円でした。これは、前年の漁獲量6,971トン、漁獲高21億9千5百万円に対して約2倍になります。各漁港では、組合員の荷捌きに勤しむ姿が豊漁を物語っていました。

また、湧別では、底建網漁によるスルメイカが大豊漁で、漁獲量は1,302tと前年の5倍を超え、漁獲高においても、価格が高水準で推移したことから前年の8倍を超え、2億円の大台を突破しました。



サケの水揚げ



サケの荷捌き



スルメイカの荷捌き

総合学習

12月2日、佐呂間小学校4年生39名が、佐呂間漁業協同組合の協力により、総合学習の一環としてサロマ湖産カキについて学びました。漁船に乗り込んで水揚げ作業を見学した後、加工場での殻剥き、市場の



カキの水揚げ



カキの殻剥き

競りも見学し、小売店に入荷するまで多くの人々が携わっていることが分かり、改めて食べ物の大切さを認識しました。終了後は、蒸しがキと温かい飲み物が振舞われ、歓声を上げていました。

イベント情報

11月7日、北見市オホーツクピアファクトリーにおいて、常呂・佐呂間・湧別の各漁業協同組合青年部の主催で、第5回秋のサロマ湖祭りが開催されました。サロマ湖特産のカキとホタテが食べ放題とあって、259名の来客で賑わいました。各青年部員等32名は、貝焼きのほか、箱詰めの即売会そして抽選会とPRに励みました。

また、23日は、湧別漁港特設会場において、湧別漁業協同組合の主催で「牡蠣まつり」が実施されました。2年ものの殻付きカキ3kgが千円で買えるとあって、販売前から数百人が列をつくりました。用意した3千箱は1時間ほどで完売したため、急遽、希望者に整理券を配布して、明後日に引き換え販売する対応をとって

いました。

今後は、2月12・13日に北見冬まつり、27日にオホーツク湧別原野クロスカントリースキー大会の開催が予定されています。



秋のサロマ湖祭り



牡蠣まつり

発行 サロマ湖地域マリビジョン協議会
編集 サロマ湖地域マリビジョン協議会事務局
〒099-6404 湧別町栄町112番地の1
湧別町総合支所産業振興課内
Tel 01586-5-3763 ・Fax 01586-5-2283
Mail sangyo@town.yubetsu.lg.jp

2010.12.24



